

# LOBO 調査

## 早期景気観測

10月分 日商調査日 10月11日～18日  
当所調査日 10月11日～20日

### LOBO調査とは

全国各地の商工会議所が参加して、日本商工会議所が実施する全国規模の早期景気観測調査。当所ではさらに、会員企業40社の皆さまにも調査へのご協力をいただき、より地域に根差した調査を実施。

日商調査  
10月の全産業DI ▲10.5  
(前月比 ▲1.5ポイント)

### ○中小企業の景況感

小売業は、物価高で買い控えが続く中、人手不足に伴う人件費の増加などで悪化した。サービス業は、物価高による生活関連サービスの需要停滞で横ばい圏内で留まり、卸売業は、小売・サービス業からの引き合い減少でほぼ横ばいとなった。

製造業は、自動車関連が好調な一方、エネルギー価格の高騰によるコスト増が全体を押し下げ、建設業は、公共工事の受注増で改善を示すも力強さを欠いている。

エネルギー価格の高騰や最低賃金の上昇などでコスト増が継続する中、これに見合った十分な価格転嫁が行えていない。また、深刻な人手不足に加え、インボイス制度などの諸課題の対応も重なり、中小企業の業況は悪化に転じた。

### ○先行き

先行き見通しDIは ▲14.6 (10月)

### 比 ▲4.1ポイント

インバウンドを含む観光需要拡大への期待感が伺える一方、長引く物価高による一層の買い控えが懸念される。また、最低賃金を含む人件費の増加や円安の伸長などで収益圧迫が続く中、中東情勢の緊迫でさらなるコスト増が危惧される。十分な価格転嫁も行えていない中、働き方改革を含む深刻な人手不足への対応など企業経営の足かせは多く、中小企業の先行きは厳しい状況が続く。

### 【関東ブロックの業況(DIポイント)】

半導体関連の需要の低下が著しく、向こう1年程度はこの状況が継続するとみている。売上の確保に向けた対策を検討する必要がある(電子部品製造業)。B to B、B to C双方の事業を行っているが、企業向けの価格転嫁よりも、買い控えが続いている消費者向けの価格設定に苦慮している(菓子・パン小売業)。

### 当所調査

### 「景況感は微減、物価高・人手不足影響続く」

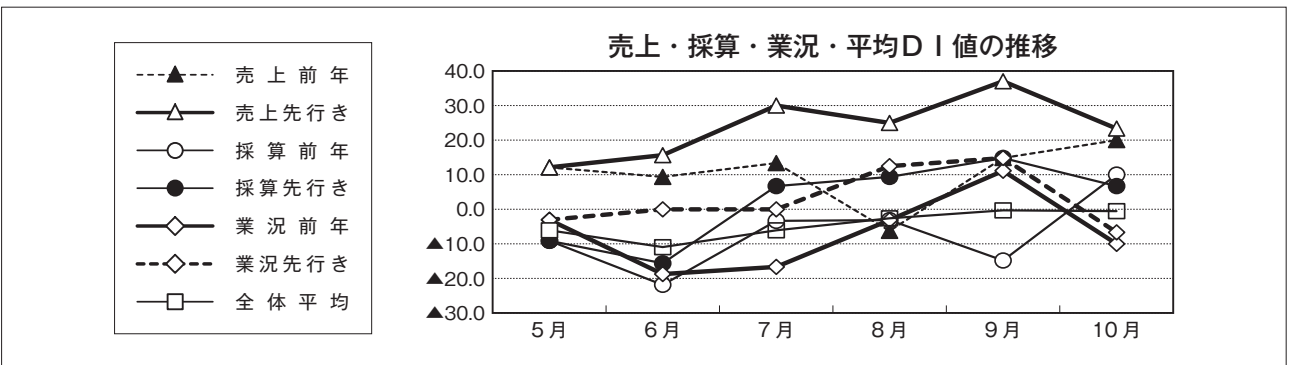
全体平均DIは ▲0.6で前月に比べ ▲0.3ポイントの悪化。項目別では、売上先行き ▲13.7ポイント、業況先行きは ▲21.5ポイントの悪化が見られた。コメントには「物価高のため消費者の買い控えが続いており、売上減となっている。今後も売上減少が懸念される。」(靴卸売業)や「新規求人を積極的に出しているが、応募が少なく、人手不足だ」(自動車一般整備業)といった物価高騰・人手不足などによる影響が伺えた。

(全産業)

## 水戸商工会議所会員企業LOBO調査(DI値推移)

(サンプル数40社)

項目	令和4年		令和5年					
	10月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	
売上前年	3.1	12.1	9.4	13.3	▲6.3	14.8	20.0	
売上先行き	6.3	12.1	15.6	30.0	25.0	37.0	23.3	
採算前年	▲12.5	▲9.1	▲21.9	▲3.3	▲3.1	▲14.8	10.0	
採算先行き	▲15.6	▲9.1	▲15.6	6.7	9.4	14.8	6.7	
仕入前年	▲71.9	▲66.7	▲71.9	▲80.0	▲65.6	▲74.1	▲66.7	
仕入先行き	▲62.5	▲51.5	▲65.6	▲73.3	▲62.5	▲66.7	▲60.0	
社員前年	18.8	24.2	25.0	33.3	31.3	22.2	23.3	
社員先行き	9.4	27.3	25.0	26.7	28.1	29.6	33.3	
業況前年	▲3.1	▲3.0	▲18.8	▲16.7	▲3.1	11.1	▲10.0	
業況先行き	0.0	▲3.0	0.0	0.0	12.5	14.8	▲6.7	
資金前年	▲15.6	▲6.1	▲9.4	▲3.3	▲3.1	▲3.7	16.7	
資金先行き	▲6.3	0.0	▲3.1	▲6.7	6.3	11.1	3.3	
全体平均	▲12.5	▲6.1	▲10.9	▲6.1	▲2.6	▲0.3	▲0.6	



※DI値(景況判断指数) = (増加・好転等の回答数 - 減少・悪化等の回答数) / 全回答数 × 100。ゼロを基準として、プラス値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナス値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものでなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がり意味するもの。